

アートカードゲーム紹介	
ここで紹介しているゲームは複数のアートカードセットを要するものがほとんどです。必要に応じて貸し出す用意があります。お問い合わせ下さい。 島根県立美術館：Tel 0852-55-4700（代表）	
低学年	5つの言葉
ねらい	五つのヒントを手がかりにカード探し当てる活動を通して、形や色などの視点を手がかりにしながら作品鑑賞を楽しむ
適した人数	1グループ 4人
方法	1.グループに1セットずつカードを配り、全部広げます。 2.最初は先生が親です。一枚のカードを選びそれに関する言葉を5つ決めます。 3.「今から五つの言葉をいいます。それを手がかりに、同じカードを見つけましょう。」 4.「どのカードかだんだん分かるので、話し合いながらカードを選んでいきましょう。」 5.ゲームの方法にクラスが慣れてきたら、グループごとに親を決め、子どもたちだけでやってみよう促します。
おすすめカード	■言葉の数はクラスに応じて変更してもよい。 全部（28と2を導入に用いるとよい）

アートカードゲーム紹介	
低学年	からだでみてね！
ねらい	カードの作品と同じポーズをとったり、どの作品を表しているか言い当てたりする活動を通して、体全体の感覚を働かせながら作品を味わったり、形の面白さに気付いたりする
適した人数	1グループ 4人
方法	1.グループに一セットずつカードを配ります。 2.最初は先生が親です。一枚のカードを選びます。 3.「今から先生がとるポーズと同じカードを探しましょう。」と言いながら作品と同じポーズをとります。 4.こどもたちは、先生のポーズを手がかりに、カードを探します。 5.ゲームの方法にクラスが慣れてきたら、グループごとに親を決め、子どもたちだけでやってみよう促します。
おすすめカード	■使用する作品は人とは限らない。抽象的な作品（37）や工芸作品（1）などで行っても楽しい。 ■美術館にある彫刻や、大きな絵画の前でやってみると鑑賞の実感が深まったり、味わえる内容が豊かになったりする。
おすすめカード	1, 9, 10, 11, 12, 23, 36, 37, 48, 50

その他（ここにあげた以外にも様々なゲームがあります）
 ■一人一人が5枚ずつ手札を持って残りのカードの山からめくって出てきたカードと手札の共通点を見付けたらそれを場に出して流していくマッチングゲーム（手札が早くなくなった人が勝ち）
 ■形容詞や簡単な言葉を読み札（ことばカード）にしたカルタゲーム（カードをたくさん取れた人が勝ち）

アートカードゲーム紹介	
中学生以上	作品トーナメント～最後の一枚～
ねらい	カードを複数の視点で順番に仕分けしていく活動を通して、1つの作品には複数の要素が重なっていることをとらえるとともに、対象の見方や感じ方を広げる
適した人数	1グループ 4～6人
方法	1.グループに1セットずつカードを配ります。 2.一つの視点をもとに、カードを二つの山に分けます。 3.分けた山の多い方を新たな視点で分けます。これを最後の一枚になるまで繰り返します。 4.視点の数、内容などをもとに最後の一枚が生まれた理由をグループ毎に発表します。
おすすめカード	■「人がいる」vs「人がいない」、「和服」vs「洋服」、「室内」vs「屋外」、「明るい感じ」vs「暗い感じ」など、作品の内容、描かれている場所、雰囲気などを視点にするとよい。 ■どちらの視点にも当てはまるカードは、話し合ってどちらかの山に分ける。 ■カードを分けた視点と、カードの数はグループごとに記録しておく。
おすすめカード	全部

アートカードゲーム紹介	
中学生以上	この作品、購入賛成！反対?!
ねらい	作品の購入について、賛成と反対、審判の三つの立場から話し合う活動を通して、美術作品のよさや美しさ、文化的な価値、身近な生活との関連、社会的な役割や制度などについて考える
適した人数	1グループ 4～6人（グループを購入賛成派2、購入反対派2、審判1の割合で分ける）
方法	1.先生があらかじめ議論するカードを決め、グループに配布します。 2.それぞれのグループはカードをもとに話し合います。 3.意見がまとまったら、賛成派、反対派は、意見を言い合い、討論します。 4.審判は両方の意見を聞き、最終的な購入の判断を発表します。 5.購入賛成派、購入反対派、審判を入れ替え、違う作品でもう一度行います。
おすすめカード	■先生は、子どもの意見を聞きながら適宜、賛成派、反対派、審判に加わり、新たな視点や作品の背景情報、知識を与えるなどして、議論を活性化する。 ■一つの作品に用いる時間は20分程度。 ■このとき、作品のどこをどのように見たのかに注目してまとめさせる。必ず作品を根拠に語らせることが重要である。文献や購入金額などの情報が必要な場合もある。
おすすめカード	8, 18, 28, 48, 57（グループの数だけ同じ作品のカードが必要です）

その他（ここにあげた以外にも様々なゲームがあります）
 ■「喜」「怒」「哀」「楽」それぞれの感情を表すカードを複数選ぶ「人生、喜怒哀楽」ゲーム
 ■一人が一枚のアートカードを選び、それについて一つの記事を書き、それを新聞としてまとめる「アート新聞」

中学年

4コマ物語

ねらい	4つのカードを物語としてまとめる活動を通して、作品を関連づけながら考えたり、よさや面白さを感じ取ったりする
適した人数	1グループ 4～6人
方法	1.グループに一セットずつカードを配ります。 2.すべてのカードを裏返して、広げ、その中から一人一枚、グループで4枚選び出します。 3.4枚のカードを「起」「承」「転」「結」に合うように並べて、お話を考えます。 4.これを繰り返して複数のお話をつくります。 5.お話の中から一つ選んでグループごとに発表します。 ■発表は、1～3班が発表、4～6班が聞き役のように交互に役割を交代する方法がよい。 ■児童の実態に応じてカードを3枚にしてもよい。
おすすめカード	全部（例えば24→27→10→57）

中学年

ここビンゴ！（ペア探し）

ねらい	作品同士の共通点を見つける活動を通して、形や色、線、ジャンルなど様々な視点から美術作品をとらえる
適した人数	1グループ 4～6人
方法	1.グループに一セットずつカードを配り、すべてのカードを裏にして並べます。 2.順番に2枚ずつカードをめくります。めくったカードの作品に共通するところ（モチーフ、色、形、素材、雰囲気など）を見つけて、その理由をグループのみんなに伝えます。 3.みんながその理由を認めると、カードは自分のものになります。 4.最後に一番多くカードを自分のものにした人が勝ちです。 ■一度使った理由は二回使えない。説明できないときはカードを裏返して戻し、次の人に順番を譲っても良い。
おすすめカード	全部（ゲームと人数の関係で枚数を調節すること）

その他（ここにあげた以外にも様々なゲームがあります）

- 色や形でしりとりしてカードを広い机の上にどんどん並べていくゲーム
- お互い手に持っている手札が相手には見えないようにしながら手札を説明し合うゲーム

高学年

美術館作り

ねらい	自分たちの美術館（あるいは展覧会）をつくる活動を通して、形や色、イメージ、作品の特徴などについて感じたことを話し合い、親しみのある美術作品のよさや美しさを感じ取る
適した人数	1グループ 4～6人
方法	1.グループに一セットずつカードを配ります。カードを全て広げ、グループで話し合いながら美術館（展覧会）のテーマを決めます。 2.テーマに合う作品や展示の順番を話し合いながら選び美術館（展覧会）としてまとめます。 3.グループ毎に美術館（展覧会）の名前と理由について考え、発表します。 ■館長や学芸員を決めて、説明役にする。説明するグループと発表を聞くグループに分けて適宜交代する。 ■一つの美術館に複数の部屋があるケースも生まれる。 ■大きな机を用いてもよいし、模造紙などを活用してもよい。 ■中学校以上で行うと美術館や学芸員の役割など内容の深まりが生まれる。
おすすめカード	全部

高学年

なりきり〇〇

ねらい	作家、お天気レポーター、アナウンサーなどになりきって作品について解説する活動を通して、作品の形や色、表し方の工夫、表現の意図、構成の美しさなどをとらえる。
適した人数	1グループ 4～6人
方法	1.自分が作家、レポーター、アナウンサーのどれになりたいか考えながら、好きなカードを一枚選びます。 2.発表者と聞き役に分かれて、それぞれ説明し合います。 ■作家になる場合:作るときに苦労した形、気に入っている色、注目してほしい場所やイメージなどを伝える。 例：⑥（ギュスターヴ・クールベ『波』）「この作品で一番苦労したのは、波の色使いです。強いのがいくぞという感じを出すために、岩にあたる前の波は黒くしました。岩にあたった波は白くして細かく飛び散ったようにしました。」 ■お天気レポーターになる場合：実況中継方式で作品に描かれた情景を伝える。 例：17（歌川広重『東海道五捨三次之内 庄野』）「こちら現場の〇〇です！突然強い雨が降ってきました。体がかがめなければ傘が飛ばされてしまいそうです。」 ■アナウンサーになる場合：作品に描かれた人にインタビューする。その人の職業、場所、気持ち、何を考えているのかななどを想像しながら、質問や答えを考える。 例：9（米原雲海『竹取翁』）「こんにちは。手を広げて楽しそうですが、何かあったのですか？」「素敵なお姫様を見つけちゃって。感動しています。」
おすすめカード	作家（4, 11, 15, 28, 48）お天気レポーター（6, 8, 17, 20, 40）アナウンサー（24, 34, 36, 46, 59）

その他（ここにあげた以外にも様々なゲームがあります）

- 仮想通貨でアートカードを売買するキッズオークション
- 「火・土・水・空気・風」「角ばった、やわらかい、大きい、軽い」「おだやか、あわてた、幸せな、物思いにふける」などの言葉で作品を分類するゲーム

マイ・ベスト・ワン！

名前

カードをワークシートにとめるためには、貼ったりはがしたりできる両面テープでとめる方法と、ワークシートに切りこみを入れて差し込む方法などがあります。



64 島根県立石見美術館

作品の名称

お花のせかい

えらんだわけ

おかあさんへプレゼント

どこが好きですか
(形、色など)

色がピンクでかわいいところ

ねらい

お気に入りのカードを見付ける活動を通して、作品の形や色、イメージなどに気付く

適した人数

1グループ 2～4人

方法

1. グループに1セットずつカードを配り、全部広げます。ワークシートを1人に1枚配ります。
2. 「私の部屋に飾る」「誰かにプレゼントする」など理由に応じて自分の好きなカードを一枚選び、作品に名前をつけたり、設問に答えたりします。
3. クラスの中を自由に動きながら、相手を見付けてお互いに説明し合います。

■例示する作品は、思い出に関するもの、見たことのあるものなど。具体的な形や色に関わって説明するとよい。

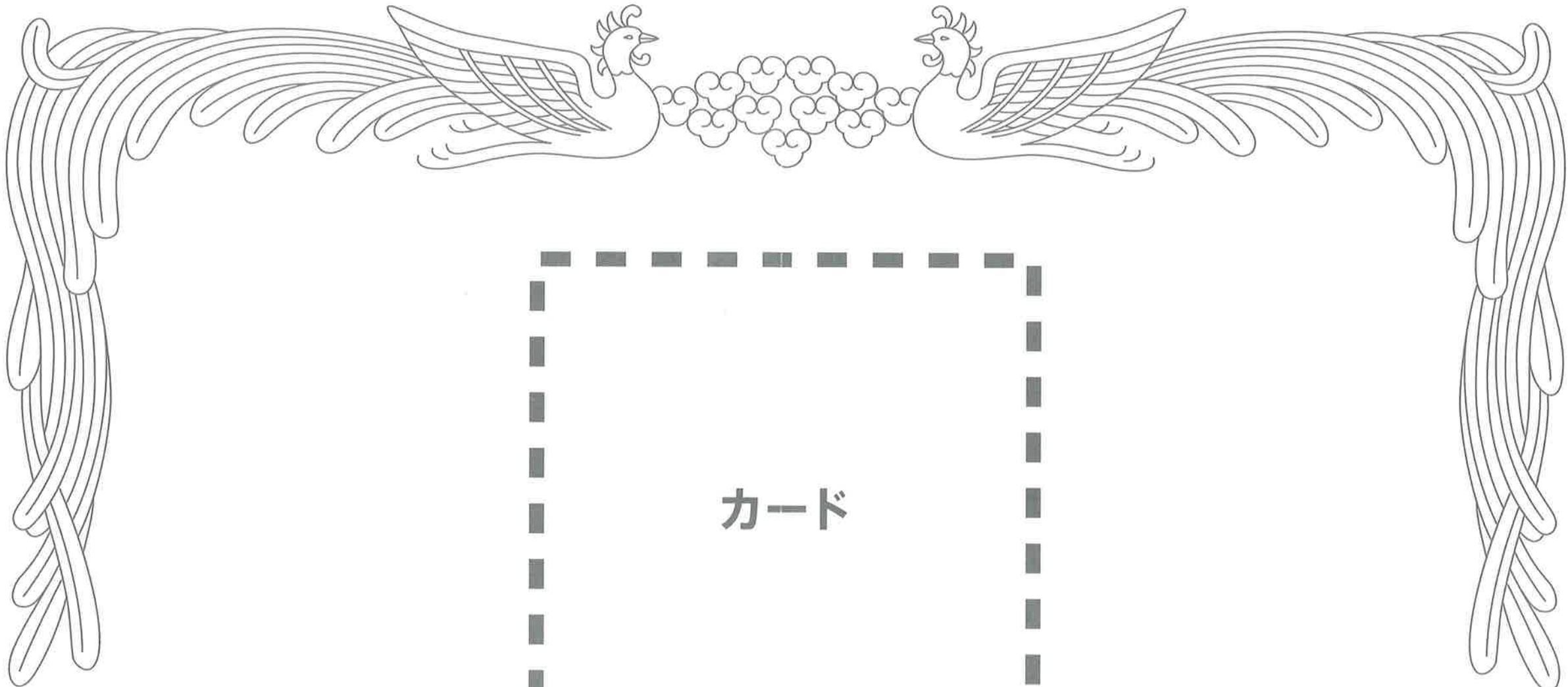
■選んだ理由や、どこが好きかなどについては、友達と一緒に考えることが望ましい。

おすすめカード 全部

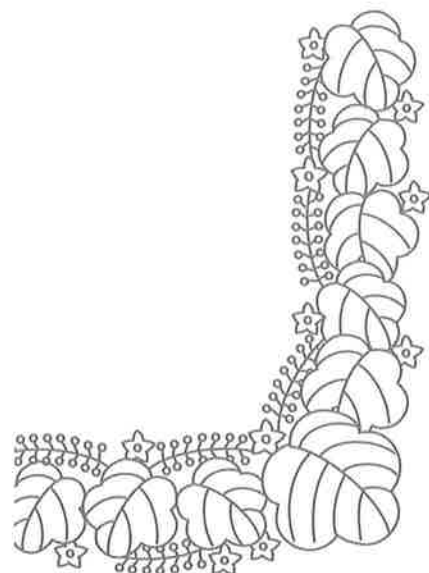
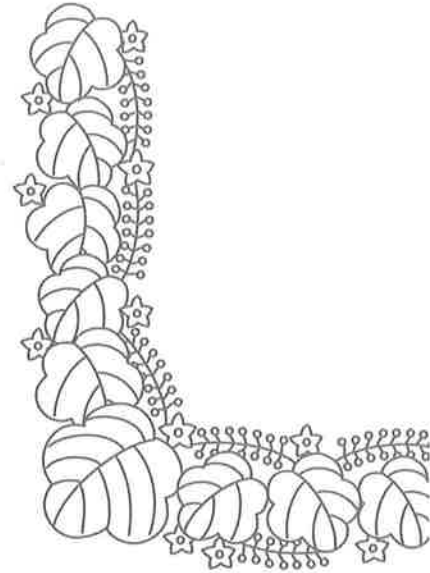
カードを順番に使って日常的な活動、例えば日直のスピーチに活用することなどもできます。

マイ・ベスト・ワン！

なまえ
名前



カード

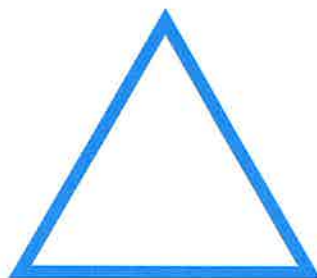
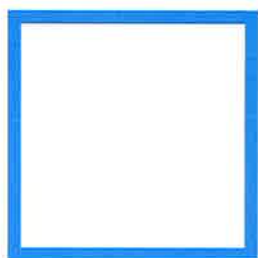
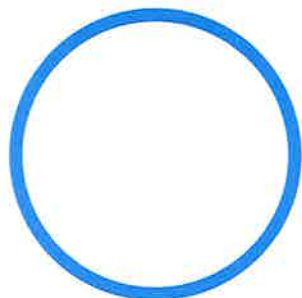


さくひん 作品の 名前	
えらんだわけ	
どこが す 好きですか かたち いろ (形、色など)	



ぼくを探して!

グループみんなの名前



ほかに見つけた形
はありませんか?



カード番号
1 2
40 31
63
39

カード番号
2 8
20
30

カード番号
39 49
63
54

カード番号
37

ねらい

カードから丸、三角、四角を探す活動を通して、作品を発見的に見ることを楽しむ

適した人数

1グループ 4人

方法

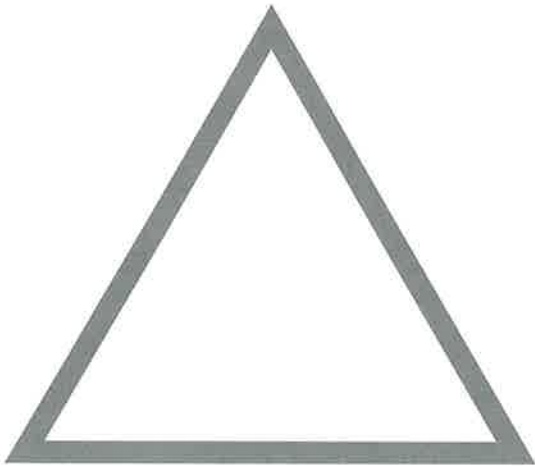
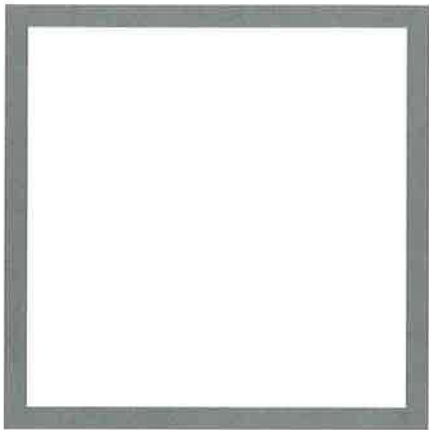
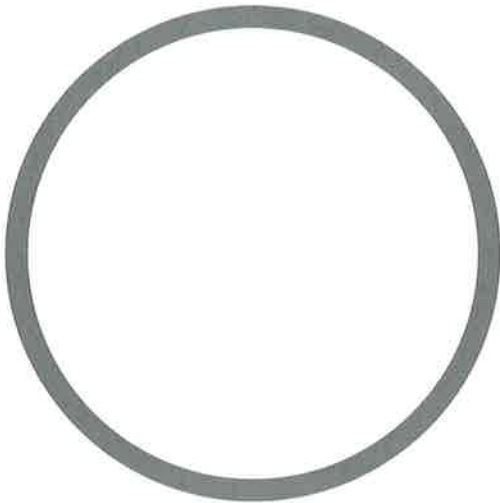
1. グループに1セットずつカードを配り、全部広げます。
 2. すべてのカードの中から丸、三角、四角を見つけます。
 3. 見つけたら、カードの番号をワークシートに記入します
 4. 4つ目の枠の中には、「ぐるぐる」「うねうね」など自分たちで考えた形を描き、カードの番号を記入します。
- 形の代わりに「明るい」「暗い」などの形容詞にかえてもできる。
 - カードをあらかじめカラーコピーして、直接カードに形を描き込めるようにする方法もある。

おすすめカード

全部

ゲームの結果ではなくプロセス
が大切です。なぜならプロセス
の中で子どもの力は伸びてい
るからです。

さが
ぼくを探して!



ほかに見つ^みけた形^{かたち}
はありませんか?

グループみんなの名 ^な 前 ^{まえ}	

カード番 ^{ばんごう} 号

カード番 ^{ばんごう} 号

カード番 ^{ばんごう} 号

カード番 ^{ばんごう} 号

あなたは絵本作家！

グループみんなの名前



島根県立美術館

どんな役？

まほうつかい

どこを見て、そう考えたの？

人でないものに变身できる
性格が曲がっている



島根県立美術館

どんな役？

おひめさま

どこを見て、そう考えたの？

足が細い、服がヒラヒラ
主人公っぽい 気弱そうなかお



島根県立石見美術館

どんな役？

おひめさまを守る 兵隊

どこを見て、そう考えたの？

着ている服が強そう

物語

体が弱くて気弱なおひめさまがいます。悪いまほうつかいは、おひめさまをいじめようとして、いつもねらっています。兵隊さんはいつもバシバシと、おひめさまとあそんでいます。守っています。

ねらい

形や色などをもとに役割を想像する活動を通して、イメージをふくらませることを楽しむ

適した人数

1グループ 4～6人

方法

1. グループに1セットずつカードを配り、全部広げます。
 2. はじめに主人公を1枚選び、役の性格や選んだ理由を考えます。
 3. 2枚目、3枚目を選び、それぞれ役や選んだ理由を考えます。
 4. 簡単な物語としてまとめます。
 5. グループ同士で説明し合ったり、全体で発表したりします。
- 2、3枚目は1枚目との関係を考えて選ぶようにする。
 - 選ぶカードは人が描かれているものだけに限らない。

おすすめカード 主人公（1, 2, 23, 31, 48） 脇役（9, 10, 12, 24, 27, 37, 46, 63, 64）

子どもたちは、「あなたはと思うの？」という質問が一番苦手です。作品を借りて自分の気持ちや考えを自由に語れるのが、美術作品の良さです。

えほんさっか
あなたは絵本作家！

グループみんなの名前

カード

2. 脇役

カード

1. 主人公

カード

3. 脇役

どんな役？

どんな役？

どんな役？

どこを見て、そう考えたの？

どこを見て、そう考えたの？

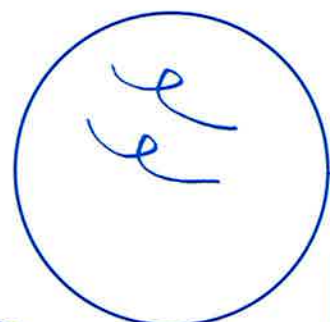
どこを見て、そう考えたの？

ものがたり
物語



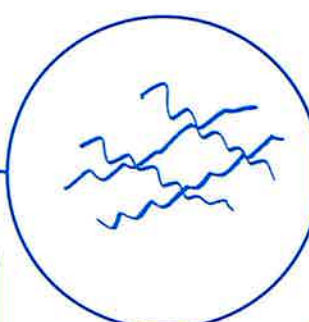
音を探して

グループみんなの名前

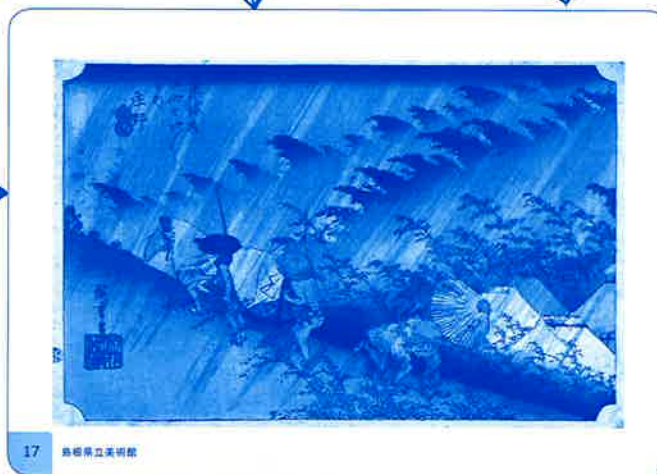


空

竹



林



足



カードをワークシートにとめるためには、貼ったりはがしたりできる両面テープでとめる方法と、ワークシートに切りこみを入れて差し込む方法などがあります。

ねらい

音を手がかりに美術作品を見ることを通して、イメージを広げながらよさや美しさを味わう

適した人数

1グループ 4～6人

方法

1時間目

- 音探しの準備運動として、まず全員耳を澄ませて、身の回りから聞こえる音を記号や文字で表します。
- それぞれグループで、おすすめカードの中から一枚を選んでワークシートに挟みます。
- 作品の中で見つけた音を、その場所から線を引いて丸とつなぎます。そして記号や文字で音を表します。

■丸が足りなくなったら増やしてよい。

2時間目

- 画用紙と色鉛筆セット持って教室(美術館)の外に出ます。自分の気に入った場所に座って、記号だけで絵を描きます。
- 描いた画用紙を用いていろいろなゲームを楽しみます。

■絵をもとにどこで音を聴いてきたか、場所を当てるゲーム、教室内に音の地図を作るゲームなどがある。

おすすめカード 7, 18, 20, 43, 58, 59

カードの枚数や内容(抽象と具象、人物画と風景画、工芸品の枚数、彫刻の種類や数など)は大切な要素です。活動のねらいに応じて考えましょう。

音以外に作品から思いついた言葉でマインドマップをつくったり、自分の写真を切り抜いて好きな作品の上に置き、作品の中に飛び込んだらどうなるか想像する方法などもあります。

おと さ が
音を探して

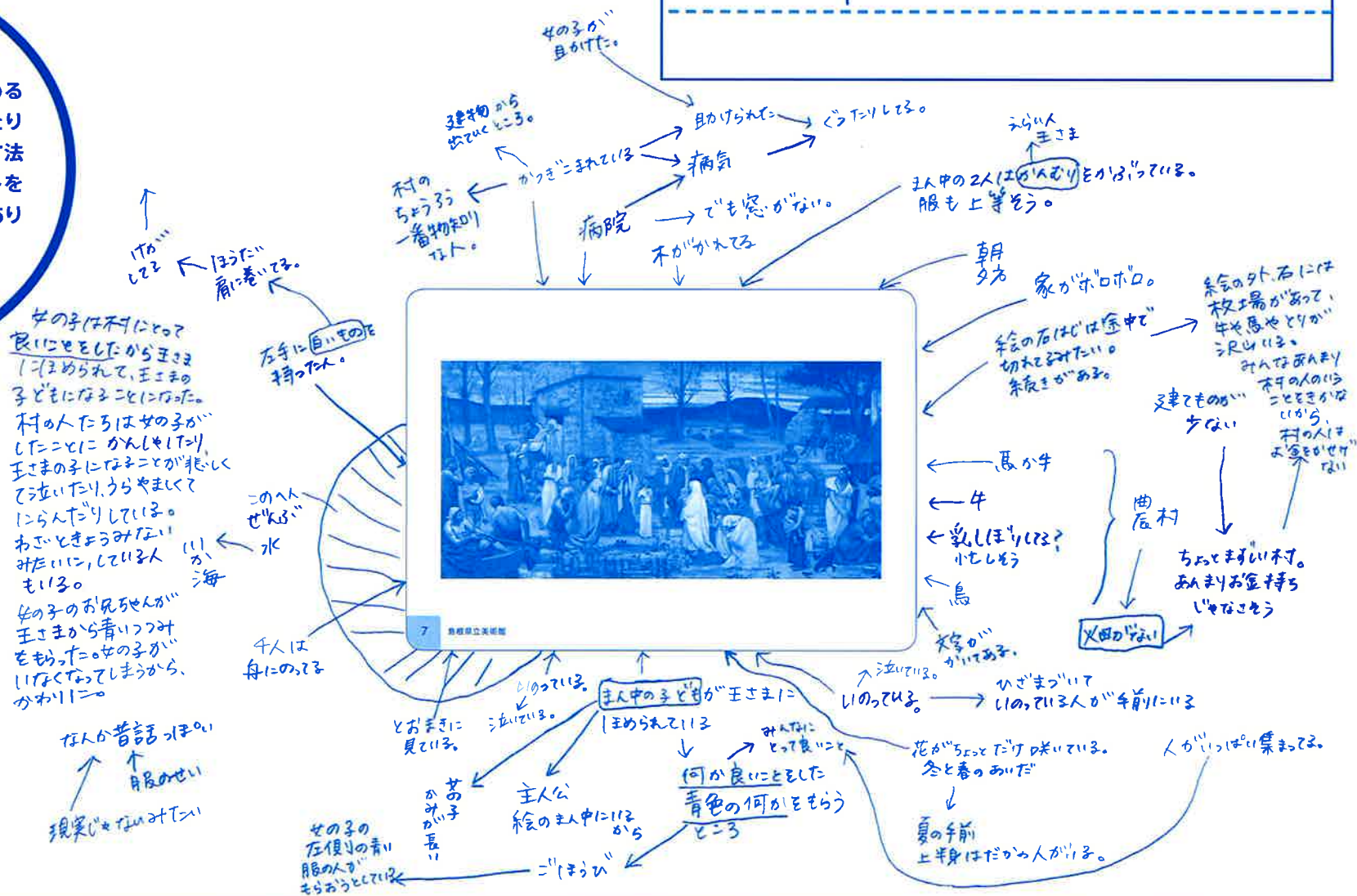
グループみんなの名前

カード

ミツバチ会議

グループみんなの名前

カードをワークシートにとめるためには、貼ったりはがしたりできる両面テープでとめる方法と、ワークシートに切りこみを入れて差し込む方法などがあります。



ねらい

メンバーを交代しながら話し合う活動を通して、形や色などを根拠に、作品のよさや美しさについて感じ取ったことを深める

適した人数

1グループ 4～6人

方法

1. 同じカードを先生がグループの数だけ用意し、それぞれのグループに配布します。
2. 1回目：カードをワークシートに差し込み、形や色など思い付いたことを話し合いながらワークシートにメモします。
3. 一人（花）を残して、他のメンバーはミツバチになって他のグループに移動します。
4. 2回目：残った人（花）は、メモを参考にしながら、1回目で話し合ったことをミツバチに伝えます。ミツバチも同様に、自分たちのグループで話し合ったことを説明します。適宜メモしながら、さらに話し合いを深めます。
5. それぞれのグループに戻ります。
6. 3回目：ミツバチは他のグループで話し合ったことを残った人（花）に報告します。残った人（花）も話し合ったことを説明します。適宜メモしながらさらに話し合いを深めます。
7. 同じことを別の作品でもう一度行います。
8. 学習のようすを先生がまとめましょう。

- グループの人数分のグループ数が必要である。例えば、4人で1グループ作るなら4グループ必要。
- 一枚当たり20分程度の時間が目安だが、学級の実態やその場の様子に応じて柔軟に考える。
- 話し合いを深めるためにメモが重要な手立てになる。文字だけでなく記号を使う、マインドマップで意見をつなげて変化が見えるようにするなど様々な方法を活用したい。

おすすめカード 2, 23, 24, 28, 36, 39, 45, 48, 50, 63

「美術作品を鑑賞した」ということが大事なのではなく、そこで話し合ったり、活動したりしながら、子どもが自分なりの意味を見付けたり、価値を判断したりすることが大切です。

自分の思うことが発言できる自由さが美術作品にはあります。正解が一つではなく一人一人の正解が生まれるよさを大切にしましょう。

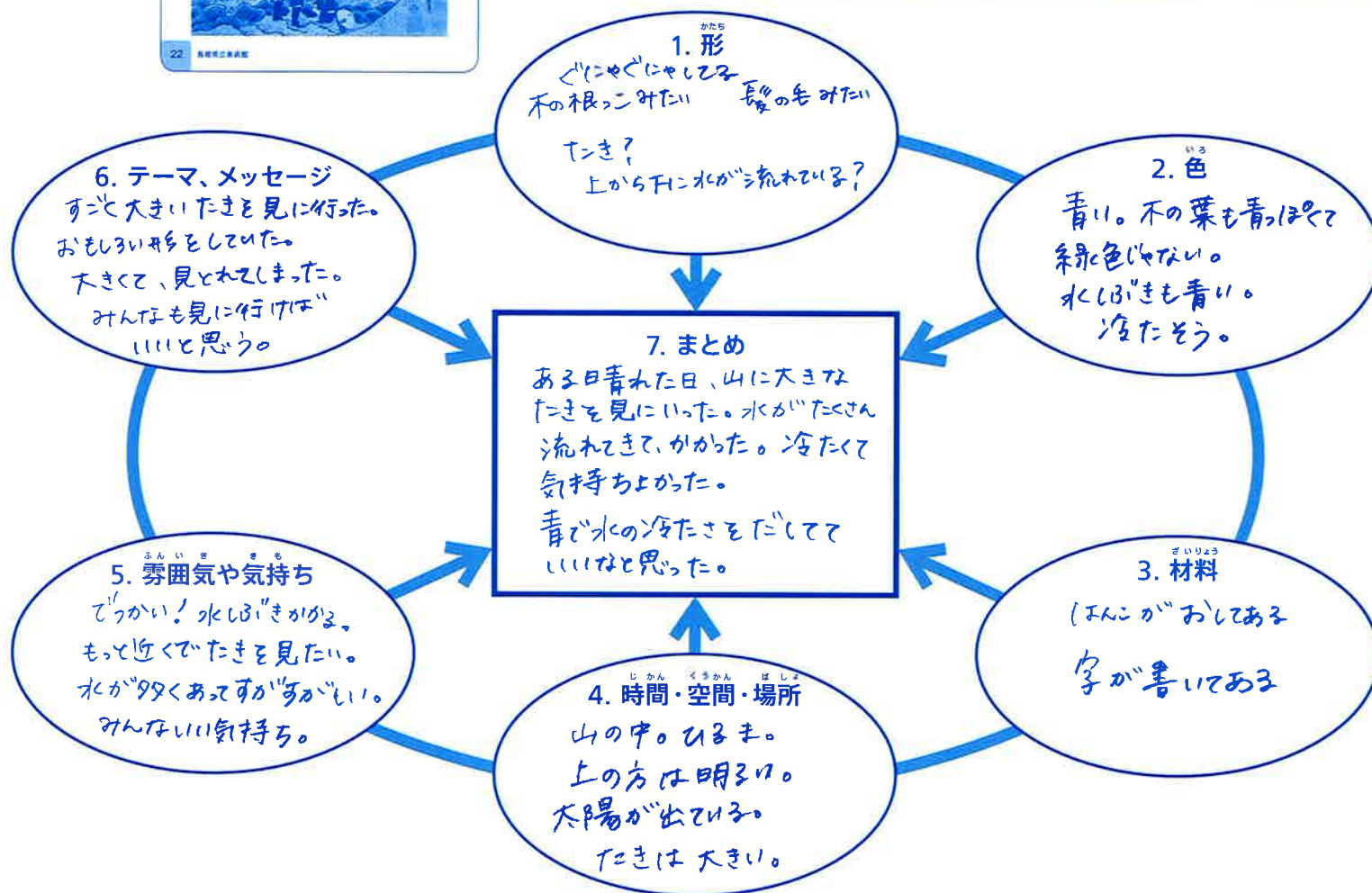
グループみんなの^{なまえ}名前

カード

7つの扉



グループみんなの名前



ねらい

キーワードをもとに見る活動を通して、作品を分析的にとらえながらよさや美しさを感じ取る

適した人数

1グループ 4～6人

方法

1. クラスに1セットのカードを配り、全部広げます。
2. カードの中からそれぞれのグループが一枚ずつ選びます。
3. 選んだカードについて、6つの扉（キーワード）をもとに考えます。
4. 6つの扉の要素を関連づけながらグループの考えを一つにまとめ、7つの扉として完成させます。
5. クラス全員の前で選んだカードについて考えたことや感じたことを発表します。

- クラスの実態や活動のねらいによって扉の数や内容を変更してもよい。
- 先生は、グループを巡回しながら、分析的に作品を見たことが一つにまとめられるように助言する。

おすすめカード 全部

鑑賞教育では、作品鑑賞を通して
子どもの力が伸びることを第一
に考えましょう。

子どもは目の前の絵を「絵」と
はとらえません。広がる「世界」
としてとらえます。

7つの扉 とびら

グループみんなの名前 なまえ

